

議 事 録

会議名	第2回寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議		
開催日時	平成31年2月25日（月曜日）14：00～15：50		
開催場所	寒川町役場 東分庁舎2階 第3会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>出席委員：三澤委員（委員長）、中間委員（副委員長）                  椎野委員、小黒委員、安藤委員、森委員                  佐藤（敬）委員、中澤委員（8名）</p> <p>欠 席：佐藤（い）委員</p> <p>事務局：鈴木福祉部参事兼高齢介護課長                  仲手川副主幹、前田主任主事、                  後藤主任主事、柏木主任主事</p> <p>社会福祉協議会：稲葉生活支援コーディネーター                  浅野生活支援コーディネーター</p> <p>傍聴者数：なし</p>		
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活援助型の介護予防訪問型サービスについて</li> <li>2. 生活支援コーディネーター活動報告</li> <li>3. 介護予防事業実施報告</li> <li>4. 第7次介護保険事業計画の評価について</li> <li>5. 今後の予定について</li> </ol>		
決定事項	平成33年度に創設する訪問型サービスAについては、委託制度で方針を決定。事務局は委託候補の団体と調整を行っていく。		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>&lt;議事前段の進行&gt;                  ○あいさつ</p> <p>&lt;ここから議事&gt;  <b>議題1 生活援助型の介護予防訪問型サービスについて</b>                  事務局：【資料1及び資料2を用いて説明。前回の会議後、町担当職員と生活支援コーディネーターで実施した訪問型サービスAの実施に向けての聞き取り調査結果の報告】</p>		

委員長：事務局より説明があったが、疑問点や質問などはないか。

委員長：なければ、本日は、平成33年度からの実施に向けた訪問型サービスAの方針について結論を出したいと思う。

副委員長：委託制度を受託しても良いという団体が出てきたということで、この方向かなという気はする。ただ、実際に委託するにしても、どのように行えばいいのかという疑問が出ると思うので、照会にもあった周辺市町村の先行事例について、受託の意向を示した団体と一緒に、調査研究を進めて、寒川町に適した形にして開始していただければと思う。

森委員：本日、方向性を出すということで再認識してよろしいか。

事務局：その通り。平成33年度に向けた方針について結論を出していただき、それに基づいて我々、事務局が動き出していければと思う。

森委員：資料にある要支援者の訪問型サービスの利用者数、80名という数値は、これは将来的な数値か、それとも今現在の数値か。

事務局：現在の数値となっている。将来的にはまだ増えていくと思われる。

森委員：近隣市町村の成功事例について調査をされたということだが、どのようなことをもって、成功した事例として捉えられているのか。

事務局：実際の聞き取り調査を行った内容からとなる。今回、調査を行った訪問型サービスAの先行事例については、現在、利用者が右肩上がりで増えていっているとの話も伺っており、事務局としては成功事例として認識している。

森委員：その先行事例を実施している市町村についても、訪問型サービスAを委託のみで実施しているのか。

事務局：今回調査を行った市町村については、訪問型サービスAは委託のみならず、指定制度についても実施を行っている。ただ、開始の時点としては試行的に委託制度のみで実施されており、段階を経て指定制度も開始したということであった。しかし、総合事業はその市町の状況に応じて実施されるものであり、そのまま同じように寒川町が実施するとは言い切れない。

また、今回の聞き取り調査については、前段の町内の調査について、委託事業の受託意向を示した団体があった為、委託制度についての実施までの経過、現在実施している手法についての聞き取り調査を行った。

森委員：了解した。先行事例について、その具体的な内容を学んでいただき、寒川町なりに理解していただければと思う。

また、今回、事務局の説明の中では、実際の事業実施に際しての、可能かどうかという点や、コスト等についての視点が多く見られたが、今後、実施に向けた検討を行うに際しては、利用者の自立支援に寄り添った制度になるように留意していただければと思う。

事務局：介護保険を運営している保険者として、利用者の自立支援についての視点についても、勿論、重視していきたいと思う。今後、受託の意向を示した団体との調整の中で、特に、サービス提供者に対しての研修内容等にもなると思うが、しっかりと自立支援の考え方が反映される制度が出来上がるように努めていく。

森委員：専門の資格者でない人間が提供するということから、是非、そのようにお願いしたい。

委員長：介護保険制度成立前、措置の時代から介護に携わる者として言わせてもらえば、このような制度が出来上がってくるのも時代の流れかと思う。

介護保険制度が出来た時は、介護サービスの利用は少ないかもと心配していたが、今では、利用者がどんどん増えてしまって、こういった訪問型サービスAのように裾野を広げていくような形になってきている。

昔から介護分野に関わっておられる方は、提供側の専門性について疑問を抱かれるかもしれないが、必然性があるって、このようなサービスが求められて、制度が作られ始めているということをご理解いただければと思う。

また、これまでの制度の変遷などを見てきた立場としては、やはり最初は委託制度で開始したほうが良いと思う。

中澤委員：先行事例について調査をされたとのことだが、制度等についての調査はされたと思うが、その実際に行われているところでの利用者の声にも注目していただければと思う。また、報酬関係についても難しいところだと思うので、これについても先行事例を参考にしながら、制度を作っていくって欲しい。

委員長：それでは、事務局の調査した資料等からすると、現状では訪問型サービスAの指定制度については、制度を作っても、提供する事業所が指定を受けないということになりそうなので、現状では、実施の可能性がある委託制度での準備を進めてもらうという方針でよろしいか。

一同了承

## **議題2 生活支援コーディネーター活動報告**

稲葉C o :【資料3から、平成30年度の生活支援コーディネーター配置事業の活動報告を行う。】

森委員：生活支援ニーズの把握手法について伺いたい。今後、町民に対して、直接アンケート調査などを実施してニーズを把握していく予定はあるのか。

稲葉C o：生活支援ニーズについては、本年度はアンケート調査等を実施する予定はない。しかし、直接的に町民から生活支援ニーズを伺う機会の必要性については認識しており、次年度以降の活動内容として、地域の中に出て行って、聞き取り調査を実施していきたいと考えている。

森委員：自治会にも関わりがある身とすれば、そういった生活支援のニーズや相談なども多く聞いているので、そういった情報を地域に出て生活支援コーディネーターが収集してもらえればと思う。

委員長：生活支援コーディネーターについて、何をどのように相談したらいいか、ということについても制度説明なども含めて行っていければと思う。

### **議題3 介護予防事業実績報告**

事務局：【資料4より、平成30年度の介護予防事業実績について報告。】

委員長：この介護予防講師派遣事業については、実績が全て単発の事業であるので、そのまま延べ人数が参加者人数ということではよろしいか。

事務局：その通り。

委員長：元気はっけん広場は、開始する前は「人が来なかったらどうしようか」等と心配もしていたと思うが、好評なようで何よりである。この調子で介護予防の取り組みを続けていただきたい。

#### 議題4 第7次高齢者保健福祉計画の評価について

事務局：【資料5及び資料6より、第7次高齢者保健福祉計画における評価について説明。第7次計画についての評価について、本推進会議において、目標2「健康保持・介護予防の促進」と目標4「高齢者の社会参加の促進」について事務局が行った自己評価についてご意見をいただきたい旨を伝えた。】

委員長：計画の評価方法について説明があったが、何か質問などはあるか。

委員長：特になければ、実際の内容について、事務局より説明をお願いします。

事務局：【資料6より「介護予防の推進」について、事務局が設定した目標、評価指標（参加者数や体力測定結果）について説明。評価については、中間見直しがあり、その内容についても説明。】

委員長：先ほども述べたが、元気はっけん広場が好調なのは良かった。総合事業移行前には、手法を変えることに不安もあったが、成功して何よりである。

また、事務局より説明のあった、お父さんのアンチエイジング講座の課題として挙げられている、新規参加者の募集については、どのようなことを行うつもりか。

事務局：来年度は第1と第3クールの会場を、健康管理センターから、ふれあいセンターに変更する予定。また、募集チラシを病院などにも配架をさせていただけないか、依頼をしてみる。また、既存の元気はっけん広場でも、募集を引き続き行っていきたいと考えている。

委員長：最近は、高齢者に限定した話ではないが、町内に出来たフィットネスのチラシなどもよく見る。介護予防事業についても、同様にPRをしていっていただきたい。

事務局：また、本年度は、お父さんのアンチエイジング講座の参加者が、自主グループを作成し、介護予防講師派遣事業を利用している事例がある。

委員長：そのように自立したグループが出来ることは良いこと。

森委員：そういった方々の活動が盛んになれば、またそれをPRしても面白い。

委員長：やはり、「お父さんの」というネーミングがよいのかもしれない。これが、「男性高齢者」などについていたら、人は集まらないと思う。そういった点も工夫しながら進めていただければ嬉しい。

事務局：【資料6より「社会参加・交流の促進」について、事務局が設定した目標、評価指標（シニアクラブ及びシルバー人材センターの会員数）について説明。評価については、中間見直しはなく、実績評価のみである旨についても説明。】

委員長：実際に、評価指標とされている団体からお話を伺いたい。シニアクラブ連合会については、どうか。

副委員長：寒川町に限った話ではないと思うが、各単位クラブの会長の担い手がいないのが課題だと思う。前からではあるが、後任を見つけることが非常に難しい。全国老人クラブ連合会でも、会員数増加に対して目標を掲げているが、なかなか増えない。

　　今後は、町シニアクラブとしては、1人暮らしで、まだ老人クラブに入っていない方をターゲットに勧誘を行っていきたい。また、シニアクラブとしての活動の質を高めていくことで、人を集めていきたい。

委員長：シルバー人材センターはどうか。

安藤委員：人が減る一方といった印象。私の所属しているグループについても、去年は4人が辞めていったが、その後、人は増えていない。人は増えないが、年齢は1年ずつ上がっていくので、体力的にも辛くはなってくる。しょうがないかな、という部分もあるが、自分も若手な方なので、頑張っている。

委員長：団塊の世代の方等は、シルバー人材センターに加入しないのか。

安藤委員：来るには来るが、話を聞いて合わないので辞めていく、という人が多い。外で行う仕事も多いので、きつくて辞めてしまうとも聞く。私個人としては、草取りや植木等だけではなく、もっと仕事の幅を広げていただければな、と思う。例えば、ビルの管理だとか。私の知り合い等だと、草取りでは腰がもたない、などというが、他の仕事であれば行うかもしれない、と考えている。

委員長：この仕事だけしかない、という募集では人もなかなか集まらないのかもしれない。

森委員：これは、シルバー人材センターで考えることなのでは、とも思うが、高齢者数は伸びているが、シルバー人材センターの加入数は減っているということについて、考察していく必要があるのではないか。

一概には言えないと思うが、シルバー人材センターも、発足当時は生きがいを求めて加入する人も多かったが、例えば、現在では最低賃金に近い設定では人も集まらないのかもしれない。

事務局：シルバー人材センターの振興については、担当職員とも連携を取りながら進めていければと思う。



	<p><b>議題5 今後の予定について</b></p> <p>事務局：今期委員の会議としては本日で最終となる。各団体には次の任期の委員推薦についても既に依頼をさせていただき、いくつかの団体からは回答をいただいているところである。次年度については、先ほど議題として扱った7次計画の評価について、早々に会議を行う可能性があるため、その点について、引継ぎを行っておいていただければと思う。</p> <p><b>(閉会)</b></p> <p>○副委員長挨拶 中間委員</p>
<p>配付資料</p>	<p>配布資料</p> <p>資料1 生活援助中心型のサービスの創設に向けた調査結果</p> <p>資料2 生活援助中心型のサービスの創設に向けた調査結果まとめ</p> <p>資料3 平成30年度寒川町生活支援コーディネーター配置事業 事業報告書</p> <p>資料4 平成30年度 一般介護予防事業参加記録</p> <p>資料5 第7次介護保険事業計画の評価について</p> <p>資料6 第7次計画 平成30年度取り組み状況中間評価（目標2・4のみ）</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>小黒 スミ子、安藤 文夫（平成31年3月8日確定）</p>